

【第13期第1回会員総会 議事録】

日時：2023年5月27日 16:50-17:40

場所：名古屋市立大学滝子（山の畑）キャンパス2号館2階207教室+Cisco Webex

報告

1. 第13期理事選挙結果について（選挙管理委員会）

田中雄大選挙管理委員長から、第13期理事選挙の結果について報告がなされた。第13期理事選挙の開票が2023年2月15日に東京大学本郷キャンパス人文社会学系研究科内において立会人のもと厳正に実施され、30名の当選を確認したこと、当選者の氏名はすでに学会ウェブサイトに掲載されている旨が報告された。

2. 第13期理事長選出について（松田第12期理事長）

松田理事長より、第13期第1回理事会の結果、北波道子会員が理事長として選出されたことが報告された。

3. 第13期理事長あいさつ

北波理事長より松田前理事長に対し謝辞が述べられた後、次のような所信表明があった。これまでの学会運営方針に基づき、次代へ安定的に引き継ぎ、堅実な学会運営を目指す。また、第13期の常任理事等について北波理事長より報告された。

4. 2022年度業務報告

(1) 松田理事長

第12期の学会活動の総括が行われた。いわゆる学会三点セット（学術大会、学会報、ニュースレター）の維持に加え、ソーシャルアウトリーチやグローバルアウトリーチの強化、インクルーシブな学会運営や様々な立場にある会員が参加しやすい環境整備に取り組んできたむね、報告があった。また支援をいただいた関係機関への謝意が表明された。

(2) 川上総務担当理事

現在の会員数について報告がなされた。2023年5月27日現在の会員数438名（一般会員369名、学生会員52名、シニア会員15名）。過去1年間で入会22名、シニア会員への移行4名、退会10名、自動退会68名であった。

(3) 山崎会計財務担当理事

22年度の会費納入率は一般、学生会員平均で78.28%であったと報告があった。クレジットカードによる会費納入を導入したことも好影響となった。決算としては、366,903円の黒

字であった。

(4) 松金編集委員長

第 24 号では、第 23 回学術大会のシンポジウムにおける基調講演 1 本、報告 4 本のほか、投稿された論文 8 本のうち 6 本が採用され、また書評 9 本とエッセイ 1 本が掲載された。また、現在、25 号を編集中である。今号より投稿規定を設けた。投稿論文等は 10 本。第 24 回学術大会シンポジウム原稿のほか、書評 9 本、研究動向 1 本、書評へのリプライ 1 本、エッセイ 1 本が掲載される見込みである。このうち研究動向は今回より導入したものであり、書評へのリプライもはじめて掲載される予定である。また J-stage 移行にむけ、原稿執筆要領が、投稿規定・原稿執筆要領となったむね報告があった。

(5) 富田企画委員長

第 25 回学術大会には分科会企画 3 件、自由論題 13 件の申請があり、全て採用された。台湾文学学会会員からの応募はなかった。

(6) 福田広報担当理事

ウェブサイトの更新、メールの配信、ニューズレターの発行を例年通りに進めた。ウェブサイトに関しては新田会員、ニューズレターについては赤松会員が担当の任期を終える。

(7) 菅野・洪国際担当理事

対外発信強化プロジェクトとして、優秀論文の英訳支援と JCEAS (Journal of Contemporary East Asian Studies) への推薦などを行った。

(8) 定例研究会担当

○ 関東：松岡理事（代理報告：川上理事）

前回大会以降全 6 回の定例研究会を開催した。

○ 関西：澤井理事（代理報告：北波理事）

2022 年 12 月 17 日に関西大学梅田キャンパスにて関西部会大会を開催した。

12 月 23 日に関西大学梅田キャンパスで関西部会大会を開催する。

○ 台北：田島幹事（代理報告：川上理事）

過去 1 年に 2 回の定例研究会を開催した。

議題

1. 2022 年度決算案について（会計監査報告）

○山崎理事より 2022 年度決算案についての説明が行われた。

・ 支出の面で会議費・交通費の予算額と決算額に大きな誤差があったのは、遠隔地の常任

理事がオンラインで会議に参加し、支出が抑えられたため。

- ・ クレジットカード決済手数料は、クレジットカードの会費納入が見積もりより多かったため、予算は1万円だったが、実際には3万円を超えた。次年度予算に反映させる。
- ・ クレジットカード決済の導入、適切なタイミングでの呼びかけにより、会費納入が増えた。

○伊藤会員により会計監査報告がなされ、2022 会計年度の決算報告書及び会計資料の監査を行った結果、適正であることが確認されたことが報告された。決算案は、異議なく原案通り承認された。

2. 2023 年度予算案について

2023 年度予算案について、会計財務担当の山崎理事より説明が行われ、異議なく原案通り承認された。

3. 日本台湾学会倫理綱領の策定について

川上理事より、日本台湾学会倫理綱領の策定について説明が行われた。策定を進めた主な理由として、昨今、国内外の学術団体で倫理 関連の規定を策定する動きがあり、日本台湾学会でも個別事案等に対応していく際に依拠する規定が必要と認め、倫理綱領の策定に至った旨が説明された。日本台湾学会倫理綱領（案）は、異議なく原案通り承認された。

4. 会計監査について

北波理事長より、会計監査の人選について推薦があった。2023 年度まで引き受けていただいている張文菁会員に加え、根岸忠会員が 2024 年度までの 2 年任期で推薦された。以上の議案について、異議無く承認された。

5. 第 26 回学術大会について

第 26 回学術大会については、清水麗会員が実行委員長となり、2024 年 5 月 25 日と 26 日に麗澤大学（千葉県柏市）において開催することが報告された。また清水会員のメッセージを川上理事が代読した。

6. その他

- ・ 富田企画委員長より、来年度大会に向けた呼びかけが行われた。
- ・ 赤松編集委員長より、学会報への投稿呼びかけが行われた。9 月中旬申込、10 月中旬締切
- ・ 赤松理事より、7 月 15 日に SNET 台湾が主催し、台湾学会に共催団体となっていた九州大学で開催するイベントについて情報共有が行われた。

以上